

ありがとうおかげさまで…

今年度の取り組みから

～水土里の会の方々におききました～

一粒のお米が一人前の稲に育つまで八十八の作業が必要だから「米」という漢字が成り立つ、この説明を毎年させてもらっています。手間がかかる分、末広がりの喜びが返ってくることを実感してもらいたいという思いからです。稲を育てる大変さや楽しみを子ども達に伝えるために、毎年色々工夫をしています。子ども同士稲の間から目が合ったら楽しい気持ちになれるのではないかと考えて、今年は4人ぐらいが向かい合って稲刈りを進めることにしました。刈り取りの速度も上がるし、何より安全管理や指導のしやすさを考慮した上ですが。

私達が子どものはたらき、大人の手伝いをするのが当たり前でした。今になって思うのですが、子どもの手伝いも大きな労働力だったのだと感じます。作業のコツや道具の手入れなど、お手伝いをしているときに地域の人から色々教えてもらったりしたものです。今では農業機械の普及に



伴い、子ども達の手伝いを必要とする作業が少なくなり、結果として子どもと地域の人がコミュニケーションをとる機会が少なくなってしまったのではないかと思います。だからこそ、水のつながりプロジェクトでは色々な事を伝えたいと思えるのでしょう。そうそう、お手伝いといえば、私達の子どもの頃は水の番をやっていましたね。今は吉野川分水が届いているので必要なくなりましたけど。その吉野川分水が子ども達の交流に役立っているのだから、縁というのは不思議なものです。水が届くおかげで今年も田んぼが賑やかになりました。地域の方々も子供さんたちが来るのを楽しみにしています。水は田んぼだけでなく地域も潤していることを、この活動を通して伝えていけたらと考えています。



お米が届いた教室から

川上村立川上小学校

前 浩輔 校長

自分たちが暮らす水源地の村から届く水に感謝して下さる水土里の会の方々、事前学習の折、「かわかみの水」を飲んで美味しいと言ってくれた香久山小学校の子どもたちの声が、川上村の良さを見つめ直すきっかけになりました。

交流水田での田植えをしてから、稲刈り体験をするまで、稲が順調に育つよう管理をしてくださった水土里の会の方々の活動が、子どもたちの水が届く先を思いやる心を育てることにつながったと感じています。

また、この「水のつながりプロジェクト」の交流活動は、4年生は、自分たちの地域が果たす役割がやがて様々な恵みや交流という形になって巡ってくる「水のご縁」を知る、5年生は、食に関する学習を進めるにあたり、川上村の食について知るとい、総合的な学習の時間の取組を始めるきっかけにもなりました。



収穫されたお米が大和平野土地改良区から体験校へと届けられました。

樫原市立香久山小学校

前田 善彦 校長

今年度も水のつながりプロジェクトで川上小学校と交流しながら自分たちが住む樫原市と川上村との水のつながりについて、お米作り体験をとおして、体や肌で感じ学ぶことができました。水のつながりとともに、生き物や植物、人の暮らしなど、さまざまな場面につながっていることも知ることができました。私自身、吉野郡で生まれ育ったので、よりプロジェクトでのつながりを身近に感じました。

交流水田では手作業で田植えや稲刈りをしてお米作りの大変さを感じることができました。交流水田の水の管理やその間の作業など水土里の会の方々にしていただいたおかげで立派な稲に成長できました。5年生は学校でバケツ稲栽培に取り組み、お米になるまでの世話や作業をしてみ、改めて稲作の苦勞を感じることができ、お米1粒も大事に残さずに食べないといけないことを改めて学ぶことができました。

事務局後記

「つないでくれる人が居てくれて嬉しいよ。子ども達から元気もらっているから。」水のつながりプロジェクトの活動を見に来て下さる地域の方からいただいたお言葉です。吉野川分水が大和平野に届く前、貴重な水を無駄にしないために様々な工夫をなさ

れていたこと、水が届くことへの感謝、様々なお話を聞かせてもらった中でも、この言葉をいただいたことは、まさしく「水のつながりは人のつながり」であることを伝えてくれており、この事業は地域の方によって支えられていると強く感じました。

水のつながりは人のつながり

令和4年度(2022年度) 水のつながりプロジェクト実施報告

主催：大和平野土地改良区・奈良県川上村 協力：奈良県農村振興課 水土里の会(樫原市田中町)

今年もお世話になりました。

2012年に始まった「水のつながりプロジェクト」は今年で11年目、数え年で4年生と同一年にあたります。今年も川上小学校の児童と、公募により平野部からの小学校1校が、お互いの地域の役割りを知れるよう交流活動を行いました。平野の交流では、樫原市田中町水土里の会みなさまにお世話になって、田植え・稲刈り体験を行い、源流の交流では水のつながりのオリエンテーリングと吉野川分水を貯水する大迫ダムの見学を行いました。



授業のきっかけに

吉野川の水が安定的に供給されるおかげで営農できていることを感謝し、大和平野から届いた「おかげ米」は、川上村にとって水源地の村のおもいが下流に届いた証になりました。このつながりを絶やさぬよう、ありがとうおかげさまで…の気持ちを育てることが本事業の目的の一つです。交流事業を通して体感した、お互いの地域の役割りや地域のつながりが、授業のきっかけになるよう、交流後はバケツ稲の栽培、おかげ米を食べるためのお箸づくり、吉野川分水歴史展示館の見学など、授業づくりのお手伝いをしました。



新しい交流掲示看板を設置しました

水源地交流水田に設置している看板を交流が見える掲示板へリニューアルしました。毎回本事業の活動を見に来て下さる地元の方々や、もちろん水土里の会の皆様に児童達からのメッセージを届けられるよう、掲示板として使えるフリースペースを設けました。体験や学習の内容、児童たちの感想などを地元の方々にお届けし、地域との交流ができる掲示板にしていきたいと考えています。



交流掲示看板のイメージ



吉野川分水(よしのがわぶんすい)

大和平野における水不足の解消を目的に実施されたもので、大迫ダム・津風呂ダム・下淵頭首工・平野内水路等の施設から構成されます。これらの施設により吉野川から大和平野に農業用水として導水されており、大和平野の農業水利の安定化に役立っています。また水道用水としても利用されており、これらの水が「吉野川分水」と呼ばれています。大和平野土地改良区では、導水幹線水路、東西幹線水路等の水路及び分水路の管理を行っています。

